

埼玉・騎西城 武家屋敷跡



- 1 所在地 埼玉県北埼玉郡騎西町大字根古屋
- 2 調査期間 一 一二〇〇一年(平13)一二月～一二〇〇二年一月
二 一九八五年(昭60)一月～九月
三 一九九四年五月～九月
四 一九九五年五月～一月
- 3 発掘機関 騎西町教育委員会
- 4 調査担当者 一 嶋村英之 二 島村範久・嶋村英之
三・四 坂本征男
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時 代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構 の概要

騎西城武家屋敷跡は騎西城跡の南に位置し、江戸初期の『武州騎西之絵図』(岩瀬正直氏蔵)の範囲を遺跡地とする。調査は、騎西城は一六世紀以降と思われる。

第四二次調査区は城の外堀の南、御蔵屋舗の門前に位置し、四号井戸(径1m深さ1.7mの素掘り)から蘇民将来符が一点出土した。他に一六世紀頃の天目茶碗が出土しており、井戸の年代は一六世紀中頃から一七世紀前半と思われる。

二 KB四区調査

KB四区は、五五次調査区の東に位置し、六号井戸(径0.9m深さ1.5mの素掘り)から蘇民将来符が一点出土した。他に一六世紀頃の天目茶碗が出土しており、井戸の年代は一六世紀中頃から一七世紀前半と思われる。

三 第四二次調査

第四二次調査区は城の外堀の南、御蔵屋舗の門前に位置し、四号井戸(径1m深さ1.7mの素掘り)から蘇民将来符が一点出土した。共伴する遺物は、白木の位牌の台座や加工材・板碑などである。年代

跡と一体的に実施されている。遺物は多様大量で、特に現在でも水位が高く木製品が大量に出土する。今回紹介する蘇民将来符は、すべて井戸の埋土の洗浄により見つかったものである。

一 第五五次調査

第五五次調査区は、重臣の屋敷地の周辺で、一七世紀頃の一号井戸(径0.8m深さ1.6mの素掘り)から木簡が一点出土した。他に漆椀などが出土している。

8 木簡の积文・内容

一 第五五次調査

- (1) 「▽あわび 武連 江戸ち」

- ・「▽安兵衛様 勘久郎」

150×20×3 033*

完形品。桧の柱目材を用いたアワビの荷札である。頭部に浅い切り込みを設け下端は尖らせる。「久」は「三」の可能性もある。なお、积読にあたっては富田勝治氏、正能晴雄氏の教示を得た。図化は嶋村薰氏の協力を得た。

二 KB四区調査

- (1) 「蘇民」

- ・「将来」(左側面)

- ・「□□」(裏面)

- ・「□□」(右側面)

37×10×10 061*

三 第四二次調査

- (1) 「蘇民」

- ・「将来」(左側面)

- ・「之子」(裏面)

- ・「孫也」(右側面)

30×8×8 061*

完形で四角柱。頭部は四角錐とし頂部より径1mmの孔が縦に穿たれている。下部にケビキのような横線がめぐる。

四 第四八次調査

- (1) 「蘇民」

- ・「将来」(左側面)

- ・「子孫」(裏面)

- ・「人也」(右側面)

19×9×10 061*

完形で四角柱。頭部は緩い四角錐とし、頂部より径1mmの孔が縦に穿たれる。左側面と裏面の下端を面取りし、下端にケビキのような横線が見られる。

2002年出土の木簡

下部を一部欠損するが上下端は残る。四角柱で頭部は四角錐とし、頂部より径1mmの孔が縦に穿たれている。文字及び彩色の境は横線が刻まれる。彩色は黒と朱で四角錐部は各面ごとに交互に塗り分け、四角柱部は区画内を上段は斜めに、下段は縦に塗り分ける。今回の報告資料中では特に丁寧に作られている。裏面の上段は「将」、右側面の下段は「民」のようだが疑いもある。

9 関係文献

騎西町教育委員会『騎西町史 考古資料編1』(11001年)

(鷲村英之)

